

相手の心の中をのぞいてみて

合川小学校 五年

みなさんは、「きつ音」という言葉を知っていますか。きつ音とは、話をする時に、言葉がスムーズに出てこなかったり、途切れたり、くり返したりするしょう状のことを言います。

私の妹は、きつ音のしょう状があります。少し前までは、きつ音という言葉すら知りませんでした。しかし、お母さんからきつ音の事を教えてもらい、妹にきつ音のしょう状があることも聞きました。

最初は、妹にそんなしょう状があるとは思っていなかったのでおどろきましたが、今、思うと、妹は話をするときに、うまく言い出せなかったり、言葉につまったりすることがあることを思い出しました。同時に、妹がうまく言えない時に、私は、

「早く言って」

と、せかすようなことを言ってしまったことも思い出しました。その時は、何も考えずに軽々

しく言ってしまったけれど、妹は、私の言葉に傷ついてしまったのではないかと思います。

自分にとっては、何気なく言った言葉、これくらい、いいやと思って言った言葉でも、相手にとっては、そうではなく深く傷つくことがあるのだということに気づくことができました。特に、きつ音では、早く言うように声をかけると、より不安になったり、きん張したりして、うまく言えなくなることもあると聞いたので気をつけないといけないと思いました。

「なんで、そんなしゃべり方なの。」
と聞くことは、例えば、苦手だったり、できないと思ったりしていることに対して、

「なんで、できないの。」
と言っていることと同じです。言っている方は、深く考えずに聞いているのかもしれませんが、相手の心の中をのぞいてみてほしいと思います。

妹は、時期小学校に入学します。初めて出会う友達に、うまく言葉が言い出せないことで、

まねされたり、嫌なことを言われたりしないかという心配もあります。

しかし、私たち一人ひとりが言葉を発する時に一歩立ち止まり、相手の心の中をのぞいてみて、発言することを心がけると、だれもが安心してすごせるのではないかと思います。そして、「きつ音」というしょう状を知らない人たちもいると思うので、その人たちにも知ってもらい、おたがいのよさだけでなく、ちがいも認め合ってよりよい社会をつくっていきたいと思います。